

会 議 録

会議の名称	令和7年度 第1回 白岡市総合教育会議	
開催日	令和7年6月25日（水）	
開催時間	午後3時から4時50分まで	
開催場所	白岡市中央公民館 講堂	
出席者 （出席構成員）の 職・氏名等	白岡市長 藤井栄一郎 白岡市教育長 横松伸二 白岡市教育長職務代理者 山崎美佐江 白岡市教育委員 和田玲子 白岡市教育委員 小野目如快 白岡市教育委員 福永肇 （計：6人）	
欠席者 （欠席構成員）の 職・氏名等	なし	
事務局職員の 職・氏名	【市長部局】 副市長 椎木隆夫 経営企画部長 神田正 企画政策課長 小林知史 企画政策課 課長補佐 中野立士 企画政策課 主査 吉野大輔 企画政策課 主任 杉寄晃洋 （計：6人）	【教育委員会】 教育部長 長谷川亘 教育部参事兼教育指導課長 蓮見宣宏 教育総務課長 高澤憲司 生涯学習課長 岩楯浩志 魅力ある学校づくり推進室 室長 齊藤健 教育指導課 主任指導主事 安達季秋 教育総務課 主幹 神田晶子 魅力ある学校づくり推進室 主査 相子純一 （計：8人）
その他会議 出席者	共栄大学 副学長・教育学部 教育学科 教授 濱本 一	
会議次第	1 開 会 2 挨拶 3 議 事 白岡市のこれからの学校教育について 4 その他 5 閉 会	

配布資料	会議次第 講義資料「白岡市のこれからの学校教育」
------	-----------------------------

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
神田部長 (経営企画部)	1 開会 神田経営企画部長の進行により会議が開会した。
藤井市長	2 挨拶 藤井市長から挨拶が行われた。
神田部長 (経営企画部)	議事の進行について、椎木副市長とすることについて意見を伺った。 (椎木副市長が進行役となることに意見等なし。) 以下、椎木副市長による進行で行った。
椎木副市長	3 議事 白岡市のこれからの学校教育について 本日は、濱本先生からの講演をいただきました後、講演内容に関しましての質疑を行い、意見交換という流れで進めさせていただきたいと存じますが、構成員の皆様よろしいでしょうか。 (進行について、意見等なし。) それでは、濱本教授、よろしく申し上げます。
濱本教授	講演「白岡市のこれからの学校教育について」が行われた。
椎木副市長	濱本先生、ありがとうございました。講演内容に関しての質疑に移りたいと存じます。御質疑がございましたらお願いします。
C委員	先ほどの講演の中で、文字を読むことが難しい生徒さんがいるというお話がありましたが、文字を認知することが難しいということでしょうか。
濱本教授	形を認知することが難しいということです。「い」と「こ」の区別をすることが難しいということです。このような生徒さんには、先生が1人つくとか、特別支援学級に通いながら学ぶなど、一人一人しっかりと支援していくことが必要です。
C委員	学校の適正配置や適正規模などについても、義務教育学校などを含め様々なことを検討しなければならないと思いました。

濱本教授	<p>学校の適正配置や適正規模については、どこの市町村でも検討していく必要があります。同じ地区でも、児童数が増えている学校もあれば、児童数が急激に減少する学校もあります。そのような場合に、今までの形を変えていかなければいけないことがあります。その際に、様々な変え方があるということを知っておく必要があります。集団の規模の大きさなどから、今、教育の効果が上げやすいのが、義務教育学校であり、そういったことも視野に入れて検討していくといいと思います。</p>
B委員	<p>濱本先生が白岡で勤務されていた時に、修学旅行にグループ行動を取り入れたとのことでしたが、私の息子も先日、修学旅行に行ってグループ行動をして有意義であったようです。</p> <p>義務教育学校と小中一貫校の違いとしては、規模が大きな違いという理解でよろしいでしょうか。</p>
濱本教授	<p>規模の条件の違いもあります。小中一貫校については、小学校・中学校でそれぞれ校長先生がいますが、中学校を卒業する時には、このような子どもになってほしいという共通の目標を持って育てていくということで連携をしていきます。</p> <p>義務教育学校は、施設一体型というものがあり、同じ建物の中に小学校と中学校があります。9年間で系統的に子どもたちを育てていき、校長先生も1人です。規模の条件とカリキュラムの内容に、それぞれ違いがあります。</p>
B委員	<p>教科書はどのようなものが使われているのでしょうか。</p>
濱本教授	<p>教科書については、法律で定められているので、検定を通して教育委員会で採用されたものでなければ使うことができません。</p> <p>ただ、運用の仕方として、3年生の内容を2年生の後半でやるなどの工夫をすることはできます。</p>
A委員	<p>講演の中で、質問を投げかけられて自分で考えるということを体験してみて、批判的思考力を育む教育がされると自分で考える子どもになるなど思いました。</p> <p>また、すぐに答えをほしがる生徒がいるというお話を聞いて、自分自身も含め、すぐに答えを求める時代になっているなど感じました。</p> <p>教育の現場では、発達障害の可能性のある子どもや外国籍の子どもなど、現代の様々な課題に全て対応していくことは難しいと感じました。</p> <p>かつては、学校が全て引き受けていた部分が、近年では、家庭の責任についても言及されるようになってきたように感じます。講演を聞いて、いろいろな</p>

<p>濱本教授</p>	<p>考えに触れるなど、学校でしかできないことがあるということを考えさせられました。一人一人の個性をどう育てていくかという理想を描いていくことが、これからの学校教育には重要であると感じました。</p> <p>A委員のご意見に付け加えさせていただくと、義務教育学校というのは、9年間、先生方の指導が同じような形でできます。小学校1年生の先生も、中学校3年生の先生も批判的思考を育むために一貫した指導ができます。</p> <p>もう一点、集団がある程度の規模があると学び合いができます。</p> <p>学び合いの価値は、新たな人との出会いがあることです。友達の新たな面を発見することができ、新たな考え方を学ぶことができます。そして、新たな自分に出会うことができます。集団の規模が小さいと関係性が固定されてしまいます。いろいろな子と学び合い社会性を身に付けることが重要です。</p>
<p>山崎職務代理者</p>	<p>学び合いの中で、自分の新たな可能性に気付くきっかけとなるということはいいことであると思いました。</p> <p>時間はかかるかもしれませんが、今後、習熟度別の授業というのも必要ではないかと思いました。</p> <p>個性を育むというところで、白岡市は自然が豊かであり、四季折々の変化を感じることができる土地柄であると思います。地域の特色を生かした教育ということもできるといいと思います。</p> <p>「い」と「こ」の文字の形の認識が難しいお子さんに対しては、対面で教える場合には、文字が逆に見えてしまい理解が難しいという側面もあるのかなと思いました。</p> <p>外国籍で日本語が難しいお子さんに、日本語を教えることを補助するボランティアの登録制度などがあるといいと思いました。外国から日本に来られたお子さんに日本語を教えることで、日本の文化やルールを学んでもらう土台となることが大切なことであるというお話を聞いたことがあります。</p>
<p>濱本教授</p>	<p>習熟度別の授業はやってもいいと思います。昔は、成績を相対評価で行っており、能力別の授業をやっていたことがあります。今は、絶対評価ですから、ゆっくりでも目指す姿に到達すれば、5段階評価で5になります。ですから、習熟度別の授業などはあってもいいと思います。</p> <p>「い」と「こ」などの字の形の認識が難しいお子さんの教育については、先生が同じ目線で横について指導を行っていたりします。集団の規模があると、子ども達が助けてくれるケースもあります。</p> <p>外国籍のお子さんに対しては、ボランティアを活用することに賛成です。埼玉県でも学校応援団という制度があるので、活用いただきたいと思います。</p> <p>白岡市の豊かな自然の中で、子どもたちに様々な体験をしてもらうというこ</p>

藤井市長	<p>とも重要だと思います。体験と経験の違いとして、体験は意図を持って見せたり、触れさせたりすることです。失敗も含めて、いろいろな体験をすることが大切だと思います。</p> <p>濱本先生からは、学校は地域の拠点となるというお話を伺いました。今後、学校の適正規模・適正配置ということを検討していきませんが、学校だけではなく、例えば保育園や社会福祉施設なども集約していくことなども検討していく必要があると思っています。</p> <p>義務教育学校については、今のところ埼玉県内では4校で、今後増えていくということでしたが、先生はどのようになっていくとお考えですか。</p>
濱本教授	<p>今後、義務教育学校も、地域の特色を生かした様々な形態ができてくると思います。1つの事例としては、ビルの中に義務教育学校が入っているというのがあります。地域の実情によって、変わってくると思います。</p> <p>白岡市の良さを伸ばせる教育環境というのを議論していく必要があると思います。その中で、義務教育学校という形態にするのであれば、どのような課題があるのか、どのようにしていけばいいのか考えていくことが大切だと思います。</p>
横松教育長	<p>今後、白岡の教育ビジョンを考えていく上で、有意義な講演をいただきました。講演の中でありました、「安心」や「話すことで気づく」や「考えること」などは大切な言葉であると思いました。自分でもその言葉について考えを深めながら、教育の推進を図っていきたいと思います。</p>
椎木副市長	<p>これまでの発言なども踏まえ、最後に濱本先生に全体の総括をお願いできればと思います。</p>
濱本教授	<p>今日は、白岡市に恩返しをしたいと思い、お話をさせていただきました。</p> <p>これからの白岡市の教育や市のあり方については、日本の最先端をいってほしいなと思います。最先端をいくということは、新しいものを作ったらいいということではなく、そこに至るプロセスが一番大事だと思います。</p> <p>そのためには、人づくりが重要になります。子どもたちが、皆さんの後を継いで、白岡市をより良くしていく、そういうことが子どもたちの育成の根本になくはないと思います。</p> <p>白岡市がより良くなるように議論をし、より良い方向に進んでいただけると私としても嬉しく思います。</p>
椎木副市長	<p>活発な意見交換をありがとうございました。本日の貴重な御意見につきます</p>

<p>小林課長 (企画政策課)</p>	<p>ては、今後の教育政策の推進に活かしてまいりたいと存じます。以上で、本日の議事は終了とさせていただきます。</p> <p>4 その他</p> <p>次回の会議の開催について、現時点では未定でございますが、詳細が決まり次第、改めて、御案内しますので、よろしくお願ひしたいと存じます。</p> <p>なお、児童・生徒の安全を確保する必要が生じたときなど、緊急を要する事案が発生した場合には、随時、この総合教育会議を開催し、対応を図ってまいりたいと存じますので、あらかじめ御承知おきくださるようお願いいたします。</p>
<p>神田部長 (経営企画部)</p>	<p>5 閉会</p> <p>神田経営企画部長の閉会宣言により終了した。</p>